Shimadian File #45

しまだ人（じん）

武道の師範として国際交流に貢献
井上勝彦（いのうえかつひこ）さん（祇園町）

生涯かけ武道の修練に励み、国際交流も楽しむ剣道人

物心ついた頃から身近に武道を感じて育ち、家業の煙火会社経営と剣道を両立しながら、居合道範士号を受称した井上さん。武道での海外派遣や、職業を通して社会・国際奉仕を実践する島田ロータリークラブの元会長の経験を生かし、さまざまな国との架け橋にもなっています。

【武道で心と体を鍛える】

明治維新後に牧之原台地を開拓し、大茶園の礎を築いた中條金之助景昭翁（ちゅうじょうきんのすけかげあきおう）の流れをくむ道場で、井上さんの伯父は剣術を習っていました。その影響で「心と体を鍛えよ」という教育方針のもとに育ち、剣道を習い始め、今ではもう、実業と武道が日々の生活の大半を占めていると言います。

「会社を継いでからは両立に苦労したね。全国の猛者が集う東京で修行したときには、骨折などの怪我もたくさんあったよ。家族と妻の支えがあったから続けてこられたんだ」と微笑んで語る様子から、井上さんの人生が垣間見えます。

剣道以外にも柔道・空手道・弓道・合気道などの日本らしさをこよなく愛する外国人たちから、逆に日本人の心を教わることもあるそうです。「日本の精神に共感する外国人は、その道に一生懸命だね。どんな道でも、自律心を大切にして、流されないことが大事だと思う」

【武道で通じ合う国際交流】

全日本剣道連盟の派遣で、講師として、フランスやロシアなど、10カ国近くを訪れました。さまざまな国籍の外国人と同輩として出会うことがあります。

その交流は、島田市の国際交流にも生かされています。米国リッチモンド市との友好提携50周年には、門下生と共に、現地で居合いを披露。「愛刀をガールフレンドだと言うと、外国人も大笑いだったよ。居合道を彼らに理解してもらうには、やはり通訳の力を借りずに、自分の英語で語らないと伝わらないんだ」と、剣の達人は国際派です。

【同好の士を求めたい】

現在は師範として、剣道に加え、居合道「夢想神伝流（むそうしんでんりゅう）」を指導しています。

「『元気に真剣にやろう』を目指してね。『真剣にやるからこそ余裕が生まれて楽しくなる』ことを伝えたい。そして剣道と居合道の普及に努めて、後継者を育てていきたいね」と熱を込めます。

「長男も剣道と居合道で七段を取ってくれたけど、孫はみんなサッカーや水泳に夢中だね。武道に戻ってほしい気持ちもあるけど、それぞれの良さも分かるから応援してるよ」と修行者は優しいおじいちゃんでもあります。

アメリカで披露した居合道

発行／編集 島田市企画部広報課
〒427-8501 島田市中央町1番の1
☎ 0547-36-7118

「広報しまだ」は、環境にやさしい植物油100%のインクと、資源リサイクル推進のため再生紙を使用しています。
http://www.city.shimada.shizuoka.jp